



図6：2003年7月から10月までの、南極上空でのオゾン濃度高度分布の変化。縦軸は温位座標で示してあり、高度約13～23 kmに相当する。緑はトレーサー気体である亜酸化窒素とオゾンの相関関係から見積もった、化学的なオゾン破壊が無かった時に想定されるオゾン高度分布。赤は実際にILAS-IIで観測されたオゾン分布。黒で、それらの差から見積もられた、化学的オゾン破壊量を示す。